

○事業所名	すみだ福祉保健センター みつばち園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	115	(回答者数) 66
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 32
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心理職が訪問支援担当として、保護者・訪問先保育園等への支援を行っている。	心理面からのアプローチを重視している。必要に応じて教材やツールの紹介も行っている。	保護者や在籍園からの利用増に対応するため、職員体制や実施方法の検討を行う。本事業は希望者が多くスタッフを増やして対応しているが、1人あたりの回数増についてもニーズが高い。引き続きニーズに合った運営ができるよう検討していきたい。
2	みつばち園に在籍し、個別療育や集団療育を受けている児童が多いため、療育担当スタッフと連携が図れる。 みつばち園で療育を受けていない児童についても、保護者の意向により、保育所等訪問支援によるアプローチを行っている。	家庭や在籍園での生活時間の長さを考慮し、利用児や周囲の大人が負担のない形で関わられるように対応している。	必要に応じて訪問支援実施時期以外でも情報共有を図る。
3	職員に発達支援の専門職が揃っている。	訪問の前後での情報共有を行っている。必要に応じて他職種の評価を行うなどして、利用者の特性を把握すると共に適切な支援に繋げられるよう関わっている。 実施後の保護者面談において、直接説明を行っているので、好評を得ている。	本事業は希望者数も多くスタッフを増やして対応しているが、利用児が増加しており、1人あたりの訪問回数増についても要望があるため、ニーズに合った事業拡大ができるよう検討していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問回数増の要望があるが、訪問支援希望が多いため、児童あたりの訪問回数の確保が難しい。	訪問支援希望の増加に対して、担当する職員が限られている。 児童の状況に応じた効果的な支援の実施と訪問回数の検討が必要。	訪問支援の希望が増加する中で、担当職員の増員が難しい状況ではあるが、今後もより多く利用して貰えるよう工夫する。訪問支援担当職員の育成を行う。
2	訪問支援申込件数は増加しているが、園によって利用に偏りがある。	保育所等訪問支援に関する周知が不足している。 園によっては、訪問の目的などの十分な理解ができていない。	保護者と在籍園間の連携について、事前に確認・助言・提案などを行う。事業の目的を周知することにより、園が積極的に対応できる体制作りを検討していく。
3	報告までに時間がかかってしまうことがある。	保護者との面談前に報告書の作成や在籍園との共有などの手順があり、訪問数の増加に伴い報告までに時間を要するため、面談時間が限られてしまう。	今年度より、オンライン面談ツールの導入をした。